

ようねんかい かつどう
(3) 幼年会の活動

ようねんかい かつどう おお はしら わ
・ 幼年会の活動は大きく3つの柱に分けられる。

しきん あつ かつどう
「資金を集めるための活動」

タニシとり



イナゴとり



米づくり



なわ
縄ない



あさいと
麻糸つなぎ

しんぶんはいたつ など
新聞配達 等

ちいき やく た かつどう
「地域の役に立つ活動」

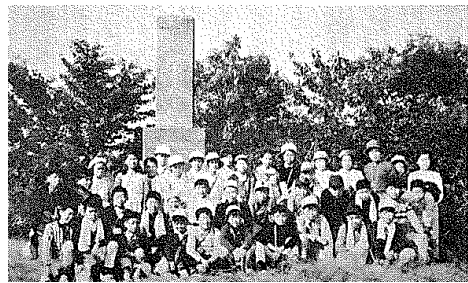
じんじゃ どうろ せいそう
神社や道路の清掃

みち お ちい 危険なものを入れる箱 (こうとくぼこ よ) や、げたやぞうりの修理に必要な (しゅうり ひつよう)

ぬの 布やひもを入れておく 缶の設置 等 (い かん せっち など)

「みんなで楽しむ活動」

よる はな かい えんそく がくげいかい など
夜のお話し会 遠足 学芸会 等



よる はな かい どくしょ たの し こ たち としきだ か よ
夜のお話し会で読書の楽しさを知った子ども達は、はじめは利貞さんから借りて読んで
いたが、しだいに、自分達も本を買いたい、と思うようになりました。しかし当時本は
とても高価で親が買ってくれることは期待できません。そこで会員から会費を集め、積
み立てて、本を購入し、みんなで回覧して楽しみました。こうした経験から、自分達の活動に必要
なお金は自分達で作ろうという発想につながったと考えられます。本の代金やお楽しみ会の時
のおかし代、遠足の船賃、さらには自分達が自由に集まれる集会所の建設のため、みんなで
協力して働こうと話し合い、資金を集めるための活動が始まりました。

しかし、ただお金のための労働というだけではなく、例えばタニシとりは毎年春の恒例
行事として、子ども達の楽しみでもあったようです。また、タニシの売り上げの一部は、
借りた荷車や大釜のお礼に持っていきました。タニシを売る値段は、「村のお店より高価で
は悪いし、かといってあまり安くするとお店が困るだろう」と、子どもなりに考えました。
こうして社会や経済の勉強にもなっていました。自分達の暮らしは自分達で良くしていこうと、
積極的に地域活動にも取り組む子ども達の姿に、地域の大人達も温かくサポートしてくれま
した。幼年会がタニシとりに行くころになると、近所のおうちは貧しい中でもタニシを買うため
のお金を用意して待っていてくれました。公徳箱がいっぱいになるころには誰かが捨て
てくれていたり、げたやぞうりの鼻緒が切れたときに使うぼろきれや麻ひもなども使
われてなくなる頃にはまた誰かが入れておいてくれたりもしました。

